後越
岡長
現代に伝わる、まちづくりの思想を尋ねて
米百俵めぐり
観光ガイド
まちとは、人が興すもの
まちづくりは、
人づくりから始まるのだ
保存版

越後長岡

米百俵めぐり観光ガイド

越後長岡の誇り、「米百俵」の故事をたどる

1 脈々と受け継がれる越後長岡「米百俵の精神」 …… 3～7
2 近代教育の先覚者、小林虎三郎 …… 8～9
3 近代日本の発展に貢献した長岡出身者たち …… 10～11
4 「米百俵」関連史跡・名所ガイドマップ …… 12～13
・長岡城本丸跡の碑
・長岡城二の丸跡の碑
・米百俵の碑
・病翁（小林虎三郎）の碑
・戊辰刀隊戦没諸士の碣銘
・米百俵の群像
・昌福寺
・興国寺
・栄涼寺
・阪之上小学校伝統館
・長岡市郷土史料館
・如是蔵博物館
・小林虎三郎の屋敷跡等
◆「米百俵」関連史跡・名所広域マップ …… 14
◆お役立ち情報 …… 15
◆「米百俵」モデルコース …… 16～17
◆「米百俵」関連行事・関連商品 …… 18～19
・米百俵デー　市民の集い
・小林虎三郎命日法要『病翁忌』
・越後長岡　米百俵まつり
◆長岡までの所要時間（観光案内窓口等） …… 20

▲長岡城攻防絵図　「米百俵」の起源は、戊辰戦争に遡る。長岡城下は３度の攻防戦で８～９割の家屋を焼失し、戦後、武士の中には３度の食事もままならない者がいたと言う。青い帯は信濃川。

1 脈々と受け継がれる越後長岡「米百俵の精神」

戊辰戦争での勇戦、そして転落

▶小林虎三郎の像（P12「米百俵の群像」）

時は幕末、慶応4年（1868）年1月3日、旧幕府軍と薩長連合軍が、京の鳥羽伏見で衝突。これに勝利を収めた連合軍（新政府軍）が越後にも迫り来ると長岡藩軍事総督・河井継之助（P9参照）は「武装中立国」という独自の国家構想と非戦思想を抱いて「小千谷会談」(※1)に臨みます。しかしあえなく会談は決裂し、継之助はやむなく抗戦を決意。やがて静けさを保っていた長岡の地は、北越戊辰戦争における最大の激戦地へと塗り替えられていきました。

このころ、継之助の断行した藩政改革によって財力を蓄え、まれに見る近代武装を整えていた長岡藩は、奥羽越列藩同盟の先陣を切って開戦すると、圧倒的な兵力を誇った新政府軍をたびたび窮地に陥れました。

その勇姿―城が落ちても最後まで諦めず、譜代大名の名のもと、徳川三百年の恩顧に報いようと忠義を貫いた戦いぶりは今日に至るまで語り継がれています。

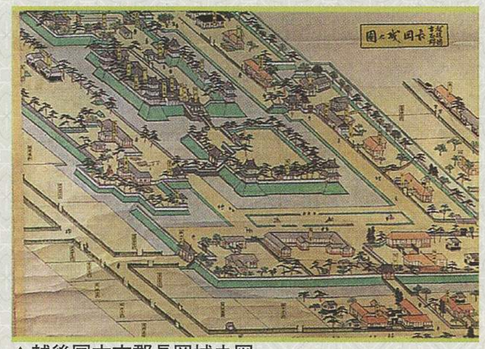
しかし、3ヶ月にも及ぶ熾烈な攻防戦の結果、家々は焼かれ、田畑は荒廃し、三百数十名余りの隊士と百名近い町民や領民も犠牲になるなど、長岡は壊滅的な打撃を受けました。さらに戦後、藩は「賊軍」の汚名を着せられ、辛い歴史を歩み始めます。藩主牧野家の断絶は免れましたが、禄高は七万四千石から二万四千石に減封され、藩士らの暮らしは飢餓と貧困を窮めました。

▶八丁沖古戦場パーク（富島町）長岡城奪還を果たした奇襲作戦決行の地

▲常在戦場の書

常在戦場は、かつての長岡藩士の一番の信条。筆は河井継之助（P9参照）と伝えられる。

(※1)小千谷会談
現在の小千谷市にある慈眼寺で、河井継之助は新政府軍の軍監・岩村精一郎と対面。非戦思想を訴え、旧幕府軍と新政府軍の和睦を図ろうと、猶予を願い出た。



▲越後国古志郡長岡城之図
城下町長岡の生みの親、堀直竒の跡を継いで、牧野忠成が完成させた。

越後長岡藩と『牛久保の壁書』

雪深い越後の国、長岡藩。藩主は、三河国牛久保（現在の愛知県豊川市）の土豪から身を興した牧野氏で、元和4年（1618）に譜代大名として長岡の地に入封し、以後250年にわたって統治した。

牧野氏は戦国時代、度重なる激戦と滅亡の危機を乗り越えて、生きしのいだ武将。藩に伝わる牧野家『牛久保の壁書』には、厳格な武士の心得18か条が記され、『常在戦場』『貧は士の常（質朴剛健）』などを説く。現在に至るまで深くこの地に浸透し、長岡の歴史と人々の気質に、大きな影響を及ぼしてきている。

廃墟の中に送られた『百俵の米』

こうした中、明治3年（1870）5月、長岡藩の窮状を見かねた支藩・三根山藩から、百俵の救援米が届きます。粥をすするばかりの食事で、空腹に耐えかねていた藩士たちはこの報に沸きあがり、いつになったら届くのかと、米の分配を一日千秋の想いで待ちわびました。

一方、藩の復興に奔走する長岡藩庁では、この米の使い途を議論した末、次のようなお触書を発表します。「…みなさんには三月以降、面扶持(※2)を与えているので、辛くても今はなんとか凌げるだろう。

百俵の米は、文武両道の稽古に励むため、必要な書籍や器具の購入に充てたい。そうすれば三根山藩の好意にも沿うはずだ」。

当時から遡ること1年前、文武総督(※3)に任命された小林虎三郎は、自著『興学私議』(※4)で唱えた「教育を普及し、人材を育成することこそ、国家の繁栄の礎」という理念を実現させるべく、昌福寺の本堂を借りて『国漢学校』を開校していました。

百俵の米が届いたのは、新校舎を整備していた最中のことです。小林虎三郎は、憤慨して詰め寄る藩士に「目先のことにとらわれない、国家百年の大計」つまり「ひもじい今だからこそ、学校を建て、子どもたちを教育するのだ」と言う人づくりの重要性を説いて諭すと、この米を売却して資金をつくり、主に学校の書籍や器具などの購入費に充てたのです。

▲長岡国漢学校発祥の地

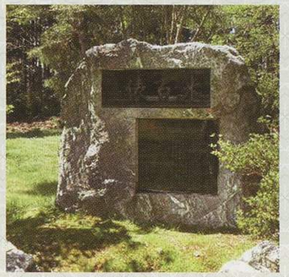
▶昌福寺（P13参照）

（※2）面扶持…武士の階級に関係なく、家族の人数に応じて藩が配給した米。
（※3）文武総督…戊辰戦争後、新たに設けられた文武学校等の教育部門の統括職。
（※4）興学私議…「私議」は個人の見解を述べること。P8参照。

「米百俵」の真価と三根山藩

米百俵は、当時の相場で約270両。そば一杯が24文程度、1両はおよそ10,000文と言われるので、換算すると大金の程は分かるが、小林虎三郎はこの百俵に金銭を超越した価値を見出していた。

米を送った三根山藩は、長岡藩初代藩主の牧野忠成が、四男の定成に蒲原郡（現在の新潟市西蒲区（巻地区岩室地区）など）の6千石を分知したことに始まる分家の藩（後に1万1千石）。本家の惨状を聞くと身を削って百俵を用意し、矢川から信濃川を経由して廃墟の長岡に届けたという。


▲三根山藩趾の米百俵の碑

▲米は、矢川の船着場（現在の舟戸橋付近）に集められ、船で運ばれた。現在、米百俵まつり（P18参照）の中で、旧巻町から長岡までを走りつなぐ『米百俵リレー』が行われる。

長岡の教育の礎『国漢学校』の誕生

明治3年（1870）6月15日、坂之上町に完成した国漢学校の新しい学び舎が、開校式を迎えます。焦土に建つ質素な校舎でしたが、人々の理解と協力を得た虎三郎の先見的な教育思想が、着実に実を結ぼうとしていました。

学校は、かつての長岡藩校『崇徳館』(※5)から飛躍的な近代化を遂げ、武士や町民、農民という身分に分け隔てなく教育の機会を与えました。

そして世界に通用する多面的な教養を得られるようにと、講義内容には『国漢』の名が示すとおり、主流だった『漢学』に、当時としては珍しい『国学』(※6)を加えたのが特徴です。また日本史や世界史、地理、物理などを学ばせたほか、専門課程の洋学局、医学局も設置しました。

▲田中春回（1833～1911）
虎三郎の片腕となって学校を運営。学灯を守り通した教育者。

教授陣には田中春回をはじめとする若い人材を揃え、授業方法には『輪講』という、今日のゼミナール方式を採り入れています。

この国漢学校は同年10月の廃藩置県によって柏崎県へと移管されて『分黌長岡小学校』へ、さらに『阪之上小学校』へと変遷します。また洋学局は中等教育機関として、『長岡洋学校』設立の基礎となり、後に『長岡中学校』を経て『長岡高等学校』に引き継がれています。

国漢学校の名は、わずか2年あまりの存続でしたが、実体は長岡の近代教育の始まりとなり、その流れを汲んだ学校からは、日本の繁栄に貢献する逸材たちが数多く巣立っていきました。

大日本国帝国憲法の起草に尽力した渡辺廉吉、東京帝国大学総長を務めた小野塚喜平次、司法大臣の小原直や連合艦隊司令長官の山本五十六。かつては逆賊と呼ばれた長岡藩の子弟たちが、新しい国家を担う重職に登用されていったのです。

（※5）崇徳館…文化5年（1808）、藩士の子弟のために開設された学校で、虎三郎もここで学んだ。講義は儒学や漢学が中心。
（※6）国学…（漢学を用いて他国、中国に習うばかりでなく）自分の国である日本の思想や歴史、制度などを学ぶもの。

山本有三と「米百俵」

「米百俵」の史実を世に大きく広めたのは、昭和18年（1943）に出版された、戯曲『米・百俵』。著者の山本有三は、当時国民的作家として名を馳せていたが、この一大戯曲を執筆前、内務省の検閲に抗議して筆を折っていた。

そこへ、長岡出身のドイツ文学者、星野慎一が訪問する機会があり、圧力に屈しない非開戦論者の「山本五十六」や、彼の故郷「長岡」について話を弾ませ、これをきっかけに『米・百俵』をまとめ上げたという。

太平洋戦争時下の政情不安定な折、教育の大切さと反戦の意を含んだこの本はたちまちベストセラーとなったが、軍部の弾圧でまもなく絶版を余儀なくされた。

▲初版『米・百俵』
長岡市郷土史料館（P13参照）に展示される。

左より『米百俵 小林虎三郎物語』286円 『米百俵 小林虎三郎の思想』953円
『One Hundred Sacks Of Rice（米百俵英語版）』953円
『米百俵―その先の未来へ―』1,429円
お求めは長岡市教育総務課 TEL0258(39)2238へ。価格は税別。

世界に広がる「米百俵の精神」

『米・百俵』の絶版からおよそ30年後の昭和50年（1975）、長岡市はこれを復刻しようと、市の事業として『米百俵　小林虎三郎の思想』を出版。全国の話題を集め、舞台芸術の殿堂、東京・歌舞伎座での『米百俵』上演が実現する。

さらに平成13年(2001)、小泉首相の所信表明演説で『米百俵』の故事が引用され、再び注目を集めた。現在、『米百俵』の復刻本は英語版も作成され、海外にも紹介される。中南米のホンジュラス共和国や東南アジアのバングラディシュにおいて、戯曲『米百俵』が現地の言葉で上演された。

◀バングラディシュでの『米百俵』公演
シルバカラ・アカデミー劇団のみなさんが、羽織・袴姿で熱演をふるい、喝采を浴びた。

虎三郎の跡を継ぐ、近代教育革命

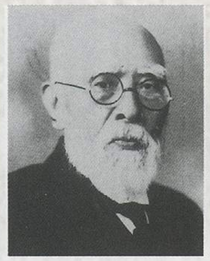
虎三郎は明治４年（１８７１）、病身のために故郷を離れますが、将来を見据えた教育第一主義、いわゆる「米百俵の精神」は、長岡の人々に受け継がれ、さらなる教育の普及と次世代の育成に多大な影響を与えました。

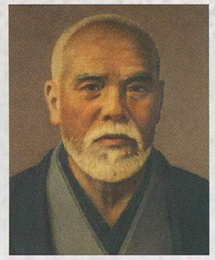
小林雄七郎は、貧しい子弟らの進学を支援するため、明治８年（１８７５）に日本初の育英団体『長岡社』を結成。星野嘉保子は早くから女子教育の大切さを説いて、同二十二年（１８８９）に『私立長岡女学校』を、その12年後には『芸娼妓裁縫教授所』を設立しています。

長岡洋学校で学び、後に東京盲唖学校長に就いた小西信八は、聴覚に障害のある息子を持つ長岡町会議員の金子徳十郎とともに、同38年（１９０５）の『私立長岡盲唖学校』の開校に力を注ぎました。

また実業家の野本恭八郎は、私財を投じて社会教育団体を支援したほか、互尊文庫』（P12参照）創設して市に寄贈。大正７年（１９１８）に開館したこの図書館では、経済学や社会学等の勉強会が盛んに開催されました。

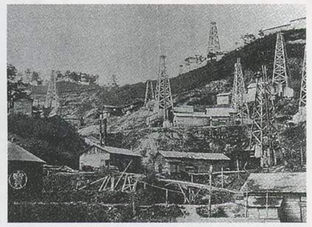
▲星野嘉保子（1848～1904）


▲小西信八（1854～1938）


▲野本恭八郎（1852～1936）

このような近代教育の充実は豊かな人材を作り出し、英才と活気に満ちた長岡には、養蚕業や製糸業、錦織物業など、新しい産業が次々と生まれました。そして幸運にも長岡の東山に豊富な『油田』が発見されると、人々は競って石油会社や製油所を設立し、この『オイルラッシュ』がさらに鉄鋼業や商業、金融業を発展させ、長岡の産業と経済は隆盛を極めていくのです。

▲宝田石油創立者
山田文七（1855～1918）
宝田石油を日本の一大会社に育て上げた。


▲東山油田の宝田石油会社の鉱場（明治期）

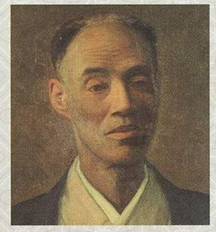
（※7）小林雄七郎…小林虎三郎の末弟。P10参照。（※8）私立長岡盲唖学校…現在の新潟県立長岡聾学校。

郷土発展の旗を振る『ランプ会』

戊辰戦争後、長岡人の勤勉さと新しい文明への反応は、目を見張るものがあった。中でも、小林虎三郎の薫陶を受けた唐物商人・岸宇吉の家では、意気軒昂な人々が文明開化の明かり『ランプ（西洋行灯）』を取り囲み、東京・大阪の情勢や、西欧の技術等を題材に、夜を徹して明日のまちづくりを語り合った。

この通称『ランプ会』には、町民や旧士族が身分の枠を越えて参加。大橋佐平（P10参照）や虎三郎、三島億二郎（P9参照）らも輪に加わり、信頼のきずなを深めながら、郷土の発展に皆が力をあわせたという。

▲『ランプ会』の様子をあらわした模型。長岡市産業展示室（P12参照）で見学できる。


▲岸宇吉（1839～1910）
まだ身分の差が色濃かった時代に、町人と武士の融和や協調を提唱した、戦後の産業・経済界のリーダー。戯曲『米・百俵』に登場する数少ない実在した人物。

現代まで生きる「米百俵の精神」

明治39年（１９０６）には『長岡市』が誕生し、大正、昭和の時代を通じて、着実な進展を遂げていきます。後の太平洋戦争で再び大きな苦しみを味わいますが、人々は長岡藩の信条であった辛抱強さと「米百俵の精神」を糧にして、奇跡の復興を成し遂げたのでした。

一度ならず、二度の戦禍から不死鳥のごとく蘇った長岡は、中越地域の産業・商業の集積都市として、また高速交通の要衝として発展を続けています。そして、恒久平和を誓い、物資や食料が豊富となり、教育制度が確立された時代においても、「米百俵の故事」は長岡に語り継がれ、その思想は脈々と受け継がれています。

昭和62年（１９８７）、市は『㈶長岡市人材育成基金』を設立し、奨学金の貸付を始めました。平成７年（１９９５）には『㈶長岡市米百俵の財団』と名称を改めて事業内容を拡充し、海外留学制度を開始したほか、『米百俵賞』を創設し、人材育成に功績のあった人物・団体を表彰しています。

また、小中学生に対しては、「米百俵のまち長岡」として、平成17年度から「熱中！感動！夢づくり教育」を実施しており、豊かな体験と確かな学びで、夢を描く力と生き抜く自信をはぐくむこととしています。

「まちの繁栄も、国の発展も、要となるのは人である。逆境にあろうとも、人を育てるのだ。」

かつて、小林虎三郎が己の信念を貫いて世に示した「米百俵の精神」。それは、現代まで伝承されるときを超えたまちづくりの思想であり、長岡人に宿る魂でもあるのです。

◀第13回米百俵賞の贈呈式
襷を授与される受賞者、バイマーヤンジンさん（左）。故郷チベットの初等教育普及のための小学校建設、奨学金制度の創設が評価された。

◀小学校の外国語活動
全国に先駆けて平成７年度から開始。子どもたちの国際性をはぐくみ、他とのかかわりを深める活動へとさらに充実している。

（※9）米百俵賞…各種分野で人材育成に大きく貢献し、「米百俵の精神」を今に体現する個人、団体を表彰するもの。毎年候補者を全国から公募し、受賞者には副賞として100万円を贈呈。

再度の悲劇と二度目の復興

長岡は、北越戊辰戦争だけでなく、太平洋戦争でも焼き尽くされた悲運のまち。昭和20年（1945）8月1日夜の長岡空襲で、まちは襲来したB29大型爆撃機の1時間40分にわたる凄まじい攻撃により、およそ8割が焼け野原と化し、燃え盛る炎の中に1,470余名の尊い命が奪われた。

しかしこの時、長岡の人々は悲しみと憤りに打ち震えるばかりではなく、残る力を振り絞ると、あえて焦土の中に『長岡復興祭』を開催。祭りを開くことで互いに励まし合い、固く手を取り合って再興に臨んだという。

この復興祭が、『長岡まつり』に名称を改めて今日まで引き継がれる。現在は、日本一と名高い「大花火大会」で全国に知られ、およそ100万人もの観客が訪れる当市の一大名物となっている。

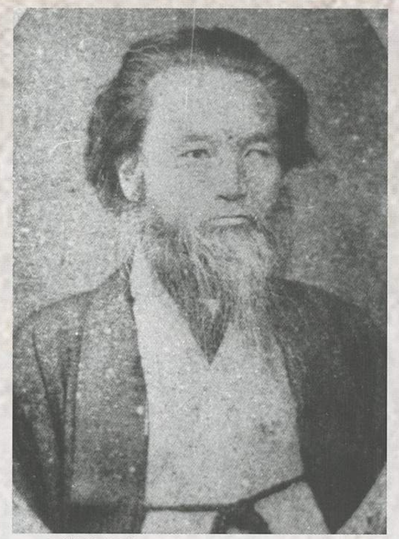
▲長岡戦災資料館
（城内町2-6-17森山ビル）
長岡空襲による惨劇と平和の尊さを、今へと伝える。入館は無料。月曜休館で、開館時間は9:00～18:00。お問合せはTEL0258（36）3269

▲田村文吉（1886～1963）
長岡空襲後のまちの復興に尽力した、太平洋戦争後初の市長。戦争で中断していた『長岡社』の復活にも貢献した。後に参議院議員となり郵政大臣・電通大臣を兼任。名誉市民。

▲長岡まつり大花火大会
毎年8月2日、3日の二日間連続して開催。日本一の大河、信濃川が作り上げた最高のロケーションで名物正三尺玉をはじめ、2日間で約2万発を打上げ。

2 近代教育の先覚者、小林虎三郎

戦争による廃墟の中。彼のかかげた「教育を広め、人材を育成すれば、日ごとまちは栄えていく」という思想は、今も色あせることなく長岡に息づく。



▲小林虎三郎（1828～1877）
幼い頃に患った天然痘で左目を失明し、顔面に痘痕が残った。終生、病にさいなまれたことから、後年「小林病翁」と改名。

文政11年（1828）、長岡藩士・小林又兵衛と久の三男として誕生した虎三郎は、年少時代から学問で頭角をあらわし、既に17歳の若さで、藩校・崇徳館の助教に就くほどの秀才でした。

将来を嘱望された虎三郎は、21歳の時、藩命を受けて江戸に発ちます。翌年、砲術指南（指導者）で名の轟く佐久間象山の門に入ると、漢学や蘭学、経世学、物理学等の勉学に励みました。

象山門下にあっても、虎三郎の逸材ぶりは際だっており、後に塾頭を務めています。象山は「天下、国の政治を行う者は吉田であるが、わが子を託して教育してもらう者は小林のみである」と、愛弟子の教育者としての資質を見抜き、高く評価していました。吉田とは長州の吉田松陰（寅次郎）のことです。トラの名を持つ二人は「象山門下の二虎」と並び称されました。

しかし間もなく、運命に陰りが生じます。嘉永6年（1853）、黒船来航の様子を間の当たりにした虎三郎は、翌年、日米和親条約が締結されようとすると、幕府老中職にあった長岡藩主・牧野忠雅に横浜の開港を言上します。ところが先見性あるこの意見も、書生の分際では取合ってはもらえず、筆頭老中の阿部正弘の叱責を買って、帰藩、蟄居（※1）を命じられたのです。

志半ばで長岡に戻った25歳の虎三郎は、10年もの謹慎生活を送ることになります。また間もなく風湿（※2）に冒されて、終生、病にさいなまれていきますが、それでも『求志洞』と名付けた書室で一心不乱に勉学に励み、安政6年（1859）には、後の国漢学校整備の拠り所となった、教育思想の大全『興学私議』（P8下欄参照）を完成させました。

国漢学校設立の起点『興学私議』

謹慎の最中、国の情勢を憂いながらまとめた「教育立国論」。戦後、困窮に陥った長岡藩を目の当たりにして、虎三郎はこの理論の重要性を痛烈に感じたと思われる。要約は次のとおり。

「ペリーが来航して以来、日本はその外敵に戦々恐々としている。これは真の学問が不在であるからにほかならない。

西洋では、学校を興し、人材を養成し、兵を強くしているので、その勢いは四方の海に横行している。特に最近は、小学（普通教育）の法が整っていると聞く。こうして基礎から人材を養成すれば国は富み、兵は強く、五州を雄姿することができるのだ。我が国家も、世界の国と肩を並べるよう、教育を普及させなくてはならない。」

▼小林虎三郎の著書類

上『小学国史』　下左『翻刊　徳国学校論略』
下右『興学私議』（求志洞遺稿※）

※明治27年（1894）、虎三郎の甥である小金井権三郎と良精（P10参照）兄弟が、『興学私議』などの伯父の遺文や詩を編集し、出版したもの。

先見の明をもって、再興に臨んだ長岡藩大参事

虎三郎がようやく表舞台に登場するのは、敗戦後のことでした。しかしそれまでも、見識豊かな「藩兵制改革の意見書」を執筆するなど、陰ながら助言を続け、時には河井継之助（左欄参照）に対して率直な批判をぶつけています。虎三郎は、戊辰戦争への参戦には激しく反対しましたが、慶応4年（1868）5月10日、やむなく戦いの火蓋が切られると、病身を押して藩主の側近として役目を勤め上げ、9月25日に米沢において、長岡藩降伏の日を迎えたのでした。

明治2年（1869）5月には文武総督となり「教育」こそ長岡復興の原動力であるとして、廃墟と化したまちに『国漢学校』を開設。11月には大参事（※3）に選出されて新校舎の建築を始めます。しかし際だった活動も病に阻まれ、明治4年（1871）には、療養のため、末弟・雄七郎を頼りに上京しました。「病翁」と改名したのはこの頃です。

後に文部省から『中博士』（※4）の登用を打診された時、病気を理由に固辞した虎三郎ですが、教育への情熱は抑えがたく、明治6年（1873）には日本語で書いた初の日本史の教科書『小学国史』を、翌年にはドイツの教育制度を翻訳した『徳国学校論略』を出版しています。

藩の行く末、日本の将来を見つめながら、教育に情熱を捧げ続けた虎三郎は、明治10年（1877）、湯治先の伊香保で熱病にかかり、8月24日、雄七郎の自宅で息を引き取ります。享年50歳。病と闘い続けた半世紀という短い生涯でしたが、彼の精神はときを経て現在も受け継がれ、長岡に、日本に、そして世界各地に息づいているのです。

（※1）蟄居…一室に閉じこもり、謹慎すること。（※2）風湿…現在のリューマチに当ると思われる。
（※3）大参事…戦後の職制改革で誕生した役職。戦前の家老職に匹敵する。虎三郎と三島億二郎、牧野頼母が選出された。
（※4）中博士…現在の大学の教授や、図書の編集官のような、学才を買われた役職。

維新の三傑
小林虎三郎をめぐる人々

戊辰戦争前に生を受け、越後長岡の『維新の三傑』とも称されるのが、小林虎三郎と河井継之助、三島億二郎。3人の屋敷は近所で、竹馬の友とも言える関係だった。『桶宗』と呼ばれる少年組に入り、時に勉学に励み、時に山野を駆け巡った。

3人は長岡藩のもとで、運命の糸を絡ませながらも各々の道を歩み出す。早くに藩主に見出されて家老まで出世を遂げながらも悲運の死を迎えた継之助と戦後の廃墟でようやく政治の舞台に登り、後輩の復興に尽力した虎三郎と億二郎。彼らの相関図が興味深い。

■河井継之助（1827～1868）

司馬遼太郎の『峠』の主人公。西国諸国を遊歴後、藩主の抜擢で異例の昇進を遂げると、画期的な藩政改革と近代武装化を断行。戊辰戦争に際しては「中立」をめざしたが小千谷会談で夢は破れ、幕府への忠誠から抗戦を決意する。戦時下は軍事総督として軍を率いるが、足の傷が元で福島県塩沢村（現只見町）で最期を迎えた。

虎三郎とは親戚関係にあるが、意見の相違から「宿敵のライバル」とも言われた。文久3年（1863）に小林家が火災で全焼した折、継之助は即座に見舞いを届けたところ、感謝のしるしとして痛烈な政治批判を返されたのは有名な話。

■三島億二郎（1825～1892）

象山に学び、虎三郎と共にペリー艦隊を目にする。この状況を藩主・牧野忠雅に報告する際、自分の意見を添えたところ、激怒を買って帰郷させられてしまった。戊辰戦争では非戦を主張するが最終的には継之助の不動の決意に「是非もなし、死生をともにせん」と応じ、戦時下は軍事掛として各地に転戦した。

戦後、虎三郎と共に大参事として藩士家族の救済と殖産興業に奔走。第六十九国立銀行（現在の北越銀行）、長岡会社病院（現在の長岡赤十字病院）、北海道開拓の北越殖民社の設立など、数々の功績を残し、長岡復興の恩人と呼ばれる。

3 近代日本の発展に貢献した長岡出身者たち

■渡辺　廉吉（1854～1925）

法学博士／14歳で戊辰戦争に従軍。戦火で家を焼失し、兄・豹吉の戦死で家督を継ぐと、学問での立身を誓う。わずか30円を懐に上京してドイツ語を修得。後にオーストリアに渡って公使館に勤める折、視察に訪れた伊藤博文の案内役を務めた。この時、その才能が認められて、帰国すると大日本帝国憲法起草の偉業に着手。以後、近代日本の法制化や地方官制の整備に貢献した。長岡社創設者の一人。

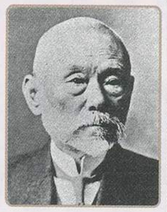
■小林　雄七郎（1845～1891）

衆議院議員／虎三郎の末弟（七男）。戊辰戦争前から江戸や横浜で、漢学・洋学を学び、慶応義塾で福沢諭吉に親炙した。後に大蔵省では『銀行簿記精法』を翻訳し、日本に初めて洋式銀行簿記を紹介している。民権自由を唱え、第一回衆議院議員に当選した。故郷には、兄の意志を継ぐかのように日本初の育英機関『長岡社』を設立し、堀口九萬一や山本五十六など、貧しい子弟らに学問への道を開いた。

■大橋　佐平（1835～1901）

実業家（出版王）／戊辰戦争中は反戦活動に奔走し、主戦派から命を狙われた。戦後になると町人の教育に情熱を捧げながら、北越新聞社の設立や越佐毎日新聞の創刊など、時流を読んで次々と事業を興す。52才で上京し、出版社『博文館』を創業して大成功を収め、「日本の出版王」と称された。中でも、坪内逍遥らの有名人の論説を幅広い書物から選りすぐった『日本大家論集』は空前の売れ行きを記録。

■小金井　良精（1858～1944）



日本人初の解剖学教授。人類学者／東京大学医学部を卒業後、借金をして渡った留学先のベルリン大学で、終生の師・ワルダイエル教授に解剖学を学ぶ。帰国後27歳で同大学の教授に就き、以後定年まで講義を続けた。特にアイヌ人の研究で高い評価を受け、「解剖学・人類学の権威」と称され、後に同大学の名誉教授となる。母は虎三郎の妹・幸、妻は森鷗外の妹・喜美子。作家の星新一は孫に当たる。

■井上　円了（1858～1919）

東洋大学創設者／三島郡浦村（現在の長岡市浦）の慈光寺に出生。長岡洋学校の後身、新潟学校第一分黌を卒業後、東京帝国大学で哲学と出会う。日本初の西洋哲学史『哲学要領』等のベストセラーを世に送り、29歳で初の哲学専修学校『哲学館』（現在の東洋大学）を創立。しかし校舎が倒壊、焼失する憂き目に逢い、協賛を求めて自ら全国を巡講。支援者の中には、その志に感心した勝海舟の名もある。

■小山　正太郎（1857～1916）

洋画家／上京した小山正太郎は、川上冬崖の塾に学んで頭角を現し、軍士官学校で図画を指導していたが、政府の「工部美術学校」の創設の話を聞くと、いち早く入学してイタリア人画家フォンタネージに師事した。その後、西南戦争の混乱の折も多くの画学生を育て、国粋運動の圧力の中にも粘り強く洋風美術を擁護するなど、日本洋画の黎明期に大きな足跡を残した。父の良運は河井継之助の無二の友。

■堀口　九萬一（1865～1945）

外交官。漢詩人／20歳で上京して、司法省法学校（現在の東大法学部）に官費入学を果たし、卒業の翌年には外交官試験に合格した。一時は『朝鮮王妃閔妃暗殺事件』に連座されて入監させられるが、復職すると、ブラジル・スウェーデン・メキシコ・スペイン公使を歴任し、世界各国にその足跡を残した。31年に及ぶ外交官生活を退いた後は、文筆活動に取り組んだ。雅号『長城』は、長岡城にちなむもの。

■小原　直（1877～1966）

検察官、司法大臣、内務大臣兼厚生大臣、法務大臣／禄高わずか50石の貧しい藩士の三男に生まれ、旧会津藩士で長岡裁判所検事を務めた小原朝忠の養子となった。東京帝国大学で法律学を学ぶと、養父の後を継いで司法官をめざす。後に『シーメンス事件（国際的な造船汚職事件）』等の検察史上に残る大事件を次々と担当し、「カミソリ検事」の異名で呼ばれた。長岡出身の初の大臣で長岡市名誉市民。

■杉本　鉞子（1872～1950）

国際文化人／藩家老・稲垣家の六女として武家の躾を受けて育つ。東京英和女学校（現在の青山学院）に進み、24歳で骨董商・杉本松之助と結婚のため渡米。夫の急逝で一時日本で暮らすが再び渡り、コロンビア大学で日本文化を講義した。大正14年（1925）に『A Daughter of the Samurai（武士の娘）』を出版し、全米でベストセラーに。計7か国語に翻訳され、日本の国が全世界に紹介されるに至った。

■小野塚　喜平次（1870～1944）

政治学者。東京帝国大学総長／東京帝大、同大学院に進み、政治学を専攻。同期の浜口雄幸（後の首相）とは首席を争う。ドイツ・フランスに留学後、同校政治学の初代教授となり、昭和3年から7年間総長を務める。学内での軍部の横暴を許さず、大学の自治と学問を守り通すなど、権力に屈しない近代政治の有り方を自ら体現した。著書に日本政治学のいしずえ『政治学大綱』。師弟に吉野作造や南原繁などがいる。

■堀口　大學（1892～1981）

詩人。翻訳家／父は外交官の九萬一で、祖父は長岡藩士。長岡中学卒業後、上京して与謝野鉄幹の『新詩社』で文学を志した。父に伴ってメキシコやスイス、ブラジルなど世界各国を転住し、その間に詩作と翻訳に専念すると、『月光ピエロ』『砂の枕』など次々と発表。中でも340編の訳詩を集めた『月下の一群』は、日本の近代詩に多大な影響を与えた。昭和45年文化功労者、同54年に文化勲章を受章。

■松岡　譲（1891～1969）

作家／現在の長岡市村松町、本覚寺の長男に生まれた。東京帝国大学哲学科在学中から夏目漱石の門で文学活動に励み、後に寺院のあり方を問う自伝小説『法城を護る人々』を発表、ベストセラーとなる。漱石の長女、筆子との結婚後は、才能を惜しまれながらも文壇を遠のいたが、疎開した郷里で執筆活動を続けた。晩年を過ごした悠久山には、文学碑と長岡中学の同級生、堀口大學が添文した石碑が建つ。

■山本　五十六（1884～1943）

海軍大将、連合艦隊司令長官／長岡藩士・高野貞吉の六男に生まれ、32歳で、断絶していた旧家老職の名家、山本家を継いだ。長岡中学を卒業後、海軍へと進み、アメリカに精通して早くから石油や航空機の重要性を説いた。ロンドン軍縮会議に出席し、日華事件が起きる日独伊三国同盟に反対。日米開戦に反対したが時流には逆らえず、太平洋上で非業の死を遂げた。「元帥」を授けられ国葬に浴す。

東大総長、小野塚喜平次が貫いた「郷土の精神」

小野塚喜平次は教授時代、桂内閣が示したロシアとの妥協的外交政策に強硬な反対論を7名連名で提唱し（七博士事件）、同僚の戸水寛人教授が政治的言動によって文部省から処分された際は、学者の責任と学問の自由、大学の独立を説いて毅然と政府に抗議した（戸水事件）。

小野塚が東京帝国大学総長に就いたのは、日本がファシズム（独裁政治）に傾斜していく昭和初頭のこと。当時、暴圧的な軍部が学校内での軍事教官の増員や軍事教練の強化を要求したが、小野塚は断固として拒絶し、遂に任期中、教え子に軍事教科を課すことを許さなかった。

頻繁に署名を用いた名は「正義」。好まざるものは「巧言令色」。病弱な身を奮い立たせ、信念を貫き通した姿は、「米百俵の精神」ばかりか、長岡藩の「反骨精神」を体現したものと言える。

▲73歳で逝去。妻と眠る墓（下条町の専徳寺）

4 「米百俵」関連史跡・名所MAP

A.長岡駅西口方面

①河井継之助記念館

幕末の長岡藩政を担い、「武装中立」をめざした河井継之助（P9参照）の半生をたどる人物館。屋敷跡に整備され、ガトリング砲（複製）や継之助の銅像、略歴などの展示パネルのほか、当時の面影を残す庭園も鑑賞できる。

【所在地/長町1-甲1675-1】TEL（0258）30-1525、開館時間/10:00～17:00、休館日/年末年始、入館料/200円（大人）150円（高・大生）100円（小・中学生）

②互尊文庫・文書資料室

野本恭八郎が寄贈した互尊文庫（建物は再建）米百俵関連資料も多数収蔵。

TEL（0258）35-7981、
開館時間9:30～19:00、
休館日/木曜・祝日・月末等

③岸宇吉の屋敷跡

明治期の産業・経済界のリーダーが暮らした界隈。創設に貢献し、設立に当たった旧六十九銀行（北越銀行）も近い（P6参照。標識等なし）

④長岡城本丸跡の碑〈激戦の舞台となった城の跡〉

北越戊辰戦争での攻防戦により、炎に包まれた長岡城。もうもうと火の手が上がる城を後にしながら、長岡藩士たちは再起を誓って会津へと向かった。現在、市街地の整備によって城は跡形もなくなってしまったが、ありし日の光景を、阪之上小学校伝統館に展示された復元模型や長岡藩主牧野家史料館（P14）で確認することができる。

【所在地/長岡駅大手口前広場（三尺玉打ち上げ筒モニュメントの後方、トイレは駅構内）】

⑤長岡城二の丸跡の碑〈白狐の伝説残る長岡城〉

元和4年（1618）、堀直竒のあとに入部した牧野忠成は、長岡城築城の大事業を完成させる。天守閣を持たない城には、「御三階」と呼ばれる櫓がそびえ立ち、その独特の構えから、「苧引形兜城」という名で呼ばれたという。城には「白狐」の教えで縄張りを決めたという築城伝説があり、現在も二の丸跡には、白狐を祀った城内稲荷神社が残っている。

【所在地/長岡市大手通1】

⑥米百俵の碑（国漢学校跡地）〈長岡の教育の礎〉

小林虎三郎らは戊辰戦争後の明治2年（1869）、昌福寺の本堂を借りて国漢学校を開校。翌年、三根山藩から送られた米百俵を売却して資金を作り、ここに新校舎の開校を迎えた。現在、開校日の6月15日が『米百俵デー』に制定され、人材育成に貢献のあった人物や団体を表彰する『米百俵賞』の贈呈式など、記念事業が行われている。（P18参照）

【所在地/大手通2丁目交差点】

⑦興国寺〈没後約85年を経て故郷に帰った虎三郎〉

晩年、東京で暮らした虎三郎は、向島にいた弟・雄七郎の自宅で死期を迎える。上野谷中共同墓地に葬られたが、昭和35年、小林家の菩提寺だった興国寺の中村良弁住職がその遺徳を長岡の地で偲ぼうと、虎三郎とその末弟・雄七郎の墓をあわせて長岡に移葬した。墓碑には、二人の名が並んで刻まれる。また地内には先祖代々の墓も現存する。

【所在地/千手2-3-43】

⑧小林虎三郎の屋敷跡〈病翁が暮らした屋敷跡〉

現在も残る『長町』は、かつては禄高100石以上の藩士が住んだまちだった。小林家もここに居を構え、虎三郎は、幼なじみの河井継之助や三島億二郎らとともに少年組をつくり、周辺を闊歩したはず。屋敷跡には民家が建ち、当時の面影はないが、駅方面に50mほど進んだ所に河井継之助記念館がある。

【所在地/長町1丁目付近※民家のため、標柱や看板などはありません】

B.長岡駅東口方面

⑨昌福寺〈国漢学校発祥の地〉

戊辰戦争時下、寺院も軍施設として供用される中で、昌福寺は負傷者を手当てする軍病院として利用された。戦後まもない明治2年、小林虎三郎は焼失をまぬがれたお寺の本堂を借りて学校を開く。現在、門前には「長岡国漢学校発祥之地」の碑が建っている。寺内には長岡空襲の戦災殉難者の慰霊塔と、幕末きっての洋数学者・鵜殿団次郎の墓がある。

【所在地/四郎丸4-6-21】

⑩栄涼寺〈共に駆けた幼なじみが眠る墓所〉

長岡藩主牧野家の菩提寺で、歴代藩主のほか、河井継之助、三島億二郎らが静かに眠る。本堂の手前には、小林虎三郎の歌碑が立てられ、かつての宿敵・継之助や、力を合わせた億二郎の前で一句を掲げる。歌は「静かに暮らしている虎三郎が、寺の鐘の音で目をさまし、なかなか布団から抜け出せずに、暇にまかせてウグイスの鳴き声を聴いている」の意。

【所在地/東神田3-5-6】

⑪阪之上小学校伝統館〈学校の歴史と財産を一般公開〉

『国漢学校』の流れを汲む長岡市立阪之上小学校。「米百俵の精神」とともに受継がれてきた資料や市民のみなさんが提供した品々を展示していて、中には、虎三郎が国漢学校で用いた教科書など、博物館クラスの貴重品も現存する。中央に陣取る長岡城下の復元模型なども必見。

学校内のため平日のみ、見学を希望する場合は必ず電話予約を。

【所在地/今朝白1-11-21】TEL（0258）32-2134、休館日/土・日・祝、入館料/無料

⑫如是蔵博物館（日本互尊社）〈偉人による偉人のための博物館〉

「互尊独尊」思想を説いて、学校・社会教育等の事業に尽力した野本恭八郎（互尊翁）の収集品を公開する博物館。歴代の長岡藩主や山本五十六、河井継之助などの先人たちの遺品を間近に見学することができる。如是蔵とは、仏教言葉で「知恵の蔵」の意味。

【所在地/福住1-3-8】TEL（0258）32-1489、開館時間10:00～16:00、休館日/月、入館料/200円（大人）100円（小・中・高）

⑬長岡市立中央図書館

蔵書数38万冊。入って左奥の『郷土コーナー』で、米百俵関連資料を閲覧できる。

TEL（0258）32-0658、開館時間9:30～19:00、休館日/月・月末等

⑭新潟県立長岡高等学校

山本五十六や堀口大學などが巣立った『長岡中学』の流れをくむ高等学校。現在周辺は、図書館や学校などの教育施設が集積する文教地区。

C.川西方面

⑮米百俵の群像〈米百俵の精神のシンボル〉

千秋が原ふるさとの森の中央にそびえ立つブロンズ像は、『米・百俵』の歌舞伎座公演の一場面を再現したもので、平成3年に「長岡ふるさと創生事業」として建立された。米の分配を迫る藩士と、これを制止して教育の重要性を説く虎三郎の姿は圧倒的な迫力を醸し出す。なお左手に立つ母と子の像は、「米百俵の精神」を受け継ぐ次世代を象徴している。

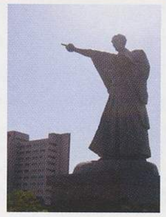
【所在地/千秋3丁目315、千秋が原ふるさとの森内、トイレは公園内】

⑯長岡市産業展示室

産業交流会館「ハイブ長岡」の1階で、産業を中心にした歴史が学べる。（無料）

TEL（0258）27-8812、開館時間9:00～17:00、休館日/月曜等

⑰三島億二郎の銅像



信濃川の堤防に立ち、まちを見渡す。その設立に貢献した長岡赤十字病院（旧長岡会社病院）が背景にある。

（三島億二郎についてはP9参照）

D.悠久山方面

⑱病翁（小林虎三郎）の碑〈長岡復興の恩人を称える碑〉

没後50年の節目に旧士族代表・松下鉄蔵が主唱して建立したもので、昭和5年の満開の桜の下、300余名が参列する中で序幕された。碑文には「学校を敗残窮餓の中に興し、以て人材を養成し、長岡をして今日の盛有らしむ」と、その功績が記されている。悠久山には虎三郎とともに「維新の三傑」とも称される同朋、河井継之助、三島億二郎の碑もある。

【所在地/悠久山公園内】

※園内について詳しくは『悠久山散策マップ』をご覧ください。

⑲戊辰刀隊戦没諸士の碣銘〈虎三郎の碑文を刻む追悼碑〉

悠久山の蒼柴神社参道脇に、戊辰戦争の最前線を務めた刀隊・槍隊の石碑が建ち、このうち刀隊7名の戦没者を追悼する記念碑に、小林虎三郎が撰文を寄せている。冒頭には、「わが藩の権力者が迷って方向を誤り、むやみに自説を主張して、敢えて官軍へ抵抗したために、城下の町は攻め落とされ…」と、河井継之助の批判ととれる言葉が記されている。

【所在地/悠久山公園内】

※園内について詳しくは『悠久山散策マップ』をご覧ください。

⑳長岡市郷土史料館〈長岡のまちの歩みを一挙公開〉

悠久山の高台にある、お城の形の建物。桜の季節は夜間に美しくライトアップされる。「小林虎三郎と米百俵」のコーナーでは、虎三郎の書や愛用した杯、佐久間像山からの書簡のほか、『米・百俵』の初版本などが展示される。長岡を学ぶ人なら、一度は訪れたい。

【所在地/御山町80-24】TEL（0258）35-0185、開館時間9:00～17:00、休館日/月・祝日の翌日・年末年始、入館料/300円（大人）150円（小・中）

「米百俵」関連史跡・名所 広域MAP

A.長岡駅西口方面

①河井継之助記念館
②互尊文庫・文書資料室
③岸宇吉の屋敷跡
④長岡城本丸跡の碑
⑤長岡城二の丸跡の碑
⑥米百俵の碑
⑦興国寺
⑧小林虎三郎の屋敷跡

B.長岡駅東口方面

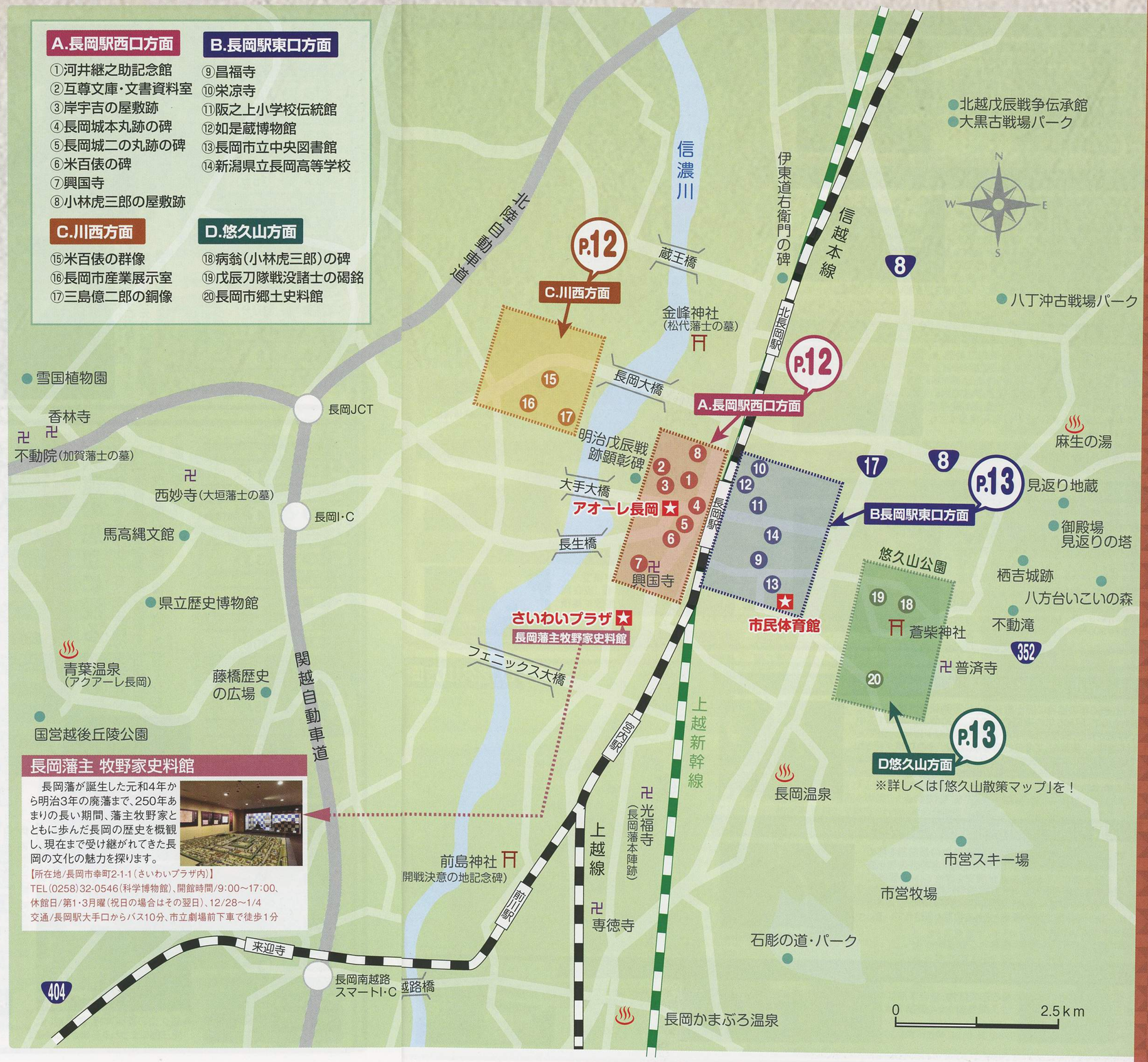
⑨昌福寺
⑩栄涼寺
⑪阪之上小学校伝統館
⑫如是蔵博物館
⑬長岡市立中央図書館
⑭新潟県立長岡高等学校

C.川西方面

⑮米百俵の群像
⑯長岡市産業展示室
⑰三島億二郎の銅像

D.悠久山方面

⑱病翁(小林虎三郎)の碑
⑲戊辰刀隊戦没諸士の碣銘
⑳長岡市郷土史料館



長岡藩主 牧野家史料館

長岡藩が誕生した元和4年から明治3年の廃藩まで、250年あまりの長い期間、藩主牧野家とともに歩んだ長岡の歴史を概観し、現在まで受け継がれてきた長岡の文化の魅力を探ります。

【所在地/長岡市幸町2-1-1(さいわいプラザ内)】
TEL(0258)32-0546(科学博物館)、開館時間/9:00～17:00、
休館日/第1・3月曜(祝日の場合はその翌日)、12/28～1/4
交通/長岡駅大手口からバス10分、市立劇場前下車で徒歩1分

お役立ち情報 Information

■アオーレ長岡

平成24年4月1日、JR長岡駅前にシティホールプラザ「アオーレ長岡」が誕生しました。巨大な屋根付き広場である「ナカドマ」を中心に、5,000人を収容するアリーナ、市民交流スペース、そして市役所が渾然一体に混じり合う、全く新しいかたちの公共空間です。

日本を代表する建築家・隈研吾氏設計による、木の温もりにあふれたアオーレ長岡は、市民協働と交流の拠点として、長岡の新たな歴史を刻みます。

総合窓口(アオーレ長岡東棟1階) TEL(0258)39-7510

■長岡観光案内所

JR長岡駅の改札口向かいにある。案内人が常駐し、各種パンフレットを取り揃えています。お気軽にどうぞ。

TEL(0258)36-3520　休日:年末年始
開館時間9:15～18:00(年末年始は10:30～17:30)

■まちなか観光プラザ

観光情報の発信地。各種パンフレットのほか、お土産品も取りそろえています。所在地/アオーレ長岡並び

TEL(0258)31-5202　休日:年末年始
開館時間9:30～18:30(12月～2月は18:00)

レンタルサイクル(まちなか観光自転車)

まちなかの歴史館や博物館などをめぐりたいという方へ「まちなか観光自転車」を貸し出します。

貸出期間/4～11月まで
(冬季は降雪のため貸出不可)
貸出時間9:30～18:00
TEL(0258)31-5202
料金/無料

長岡観光ボランティアガイド

各所の歴史を知り抜いた地元のボランティアガイドが「米百俵めぐり」を魅力たっぷりにご案内します。

手配の都合、10日前までにお申し込みください。
ガイド1名　2時間まで1,000円
長岡観光コンベンション協会TEL(0258)32-1187

米百俵モデルコース

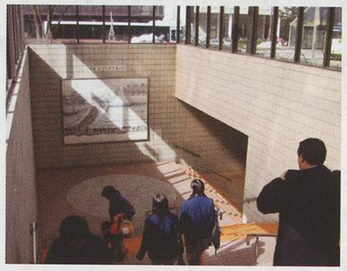
～今も息づく、まちづくりの思想をたずねて～

①ウォーキングコース 徒歩

『虎三郎を偲ぶ散歩道』

小林虎三郎になった気分で、かつての城下町、長岡の町並みを歩きませんか？五感を研ぎ澄まし、復興を遂げたまちの歴史を感じてください。

▶「国漢学校発祥の地」を示す碑。昌福寺の入口にひっそり立っている。



▶長岡駅大手口の地下道。水島爾保布の『元旦年賀登城の図』が出迎える。

- 長岡駅
- 徒歩 1分
- 長岡城本丸跡の碑
- 徒歩 4分 地下道経由
- 長岡城二の丸跡の碑
- 徒歩 3分
- 米百俵の碑
- 徒歩 15分
- 興国寺
- 徒歩 20分
- 昌福寺
- 徒歩 15分
- 阪之上小学校伝統館
- 徒歩 10分 要予約
- 如是蔵博物館
- 徒歩 3分
- 長岡駅

所要時間 約2時間30分

※休憩・昼食時間を含まない予想時間です

②ドライブコース 車

半日コース

『古今東西、米百俵を探る』

歴史ある悠久山公園と、現代的な大型施設が立ち並ぶ「千秋が原ふるさとの森」。大河・信濃川を跨いで、今に伝わる「米百俵の精神」を探りましょう。

- 長岡駅
- 徒歩 1分
- 長岡城本丸跡の碑
- 徒歩 4分 地下道経由
- 長岡城二の丸跡の碑
- 徒歩 3分
- 米百俵の碑
- 車 5分
- 興国寺
- 車 20分
- 米百俵の群像
- 長岡市産業展示室
- 車 15分
- 小林虎三郎の屋敷跡
- 車 15分
- 病翁・小林虎三郎の碑
- 戊辰刀隊戦没諸士の碣銘
- 長岡市郷土史料館
- 車 15分
- 長岡駅

所要時間 約3時間

※休憩・昼食時間を含まない予想時間です

▲3代藩主・忠辰公の植樹が始まりとされる、自然豊かな悠久山公園。

▲「米百俵」が立つ千秋が原ふるさとの森の一角「花の広場」。

一日コース

『久遠の思想に浸る一日』

市内全域を巡りながら、虎三郎の生涯を辿り、「米百俵」の史実を見つめ直す。石碑に記した虎三郎の言葉に、後世へのメッセージを読み取ろう。

▲継之助らが眠る栄涼寺の鐘の前に、虎三郎が撰文した石碑が立つ。

▲悠久山の蒼柴神社。参道沿いに虎三郎にまつわる石碑が2つある。

- 長岡駅
- 徒歩 1分
- 長岡城本丸跡の碑
- 徒歩 4分 地下道経由
- 長岡城二の丸跡の碑
- 徒歩 3分
- 米百俵の碑
- 車 5分
- 興国寺
- 車 20分
- 米百俵の群像
- 長岡市産業展示室
- 車 15分
- 栄涼寺
- 徒歩 3分
- 小林虎三郎の屋敷跡
- 車 15分
- 病翁・小林虎三郎の碑
- 戊辰刀隊戦没諸士の碣銘
- 長岡市郷土史料館
- 車 15分
- 阪之上小学校伝統館
- 車 5分 要予約
- 如是蔵博物館
- 徒歩 3分
- 長岡駅

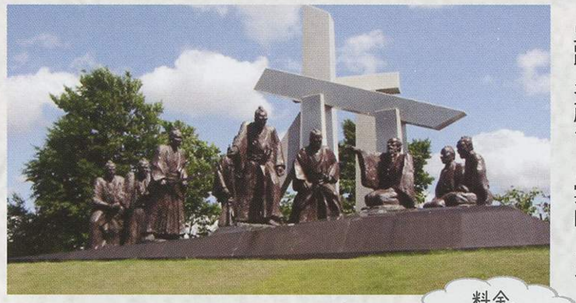
所要時間 約4時間

※休憩・昼食時間を含まない予想時間です

③タクシー会社コース タクシー

タクシーで行く『米百俵めぐり』

まちに詳しいドライバーが、安全かつ快適に、米百俵関連史跡・名所へとご案内します。



▶米百俵めぐりには不可欠。千秋ふるさとの森の「米百俵群像」

料金、内容変更、ご要望などご相談ください。

お申し込みは、下記の各タクシー会社へ

旭タクシー ☎(0258)27-5050	相互タクシー ☎(0258)34-2525
中越交通㈱ ☎(0258)35-1239	長岡タクシー ☎(0258)35-1717
㈱カンコー ☎(0258)35-0035	第一タクシー ☎(0258)32-2230
つばめタクシー ☎(0258)35-0226	三越タクシー ☎(0258)35-6161

- 長岡駅
- タクシー 2分
- 米百俵の碑
- タクシー 5分
- 興国寺
- タクシー 20分
- 米百俵の群像
- タクシー 20分
- 病翁・小林虎三郎の碑
- 戊辰刀隊戦没諸士の碣銘
- 長岡市郷土史料館
- タクシー 15分
- 昌福寺
- タクシー 5分
- 阪之上小学校伝統館
- タクシー 3分 要予約
- 長岡駅

所要時間 約3時間30分

※休憩・昼食時間を含まない予想時間です

④バス会社コース バス

半日コース

バスに揺られて『長岡歴史散歩』

団体で訪れたみなさんに、効率的な厳選コースをご提供。わかりやすいガイド付きがお薦めです。

- 長岡駅
- バス 15分
- 長岡市郷土史料館
- バス 25分
- 米百俵の碑
- バス 20分
- 米百俵の群像
- バス 20分
- 河井継之助記念館
- バス 10分
- 如是蔵博物館
- バス 3分
- 長岡駅

所要時間 約3時間30分

▶虎三郎と同じ時代を生きた、維新の三傑、河井継之助の記念館。

一日コース

団体で巡る『長岡今昔散歩』

米百俵の関連史跡・名所をかいつまみ、ほかの見所も盛り込みました。

- 長岡駅
- バス 15分
- 長岡市郷土史料館
- バス 25分
- 米百俵の碑
- アオーレ長岡
- バス 20分
- 米百俵の群像
- バス 15分
- 昼食
- バス 15分
- 越後の酒蔵
- バス 15分
- 長岡駅

所要時間 約5時間30分

▶長岡城落城後、藩士らが集結した悠久山。郷土史料館はその山頂にある。

お申し込みは

越後交通㈱ ☎(0258)30-0118

料金、内容変更、ご要望など、ご相談ください。

「米百俵」関連行事・関連商品

「米百俵」関連行事・イベント

「米百俵」にまつわる行事やイベントにあわせて、「米百俵めぐり」はいかがでしょう。

6/15 米百俵デー　市民の集い

長岡市は市制施行90周年の平成8年、国漢学校の新校舎開校日にちなんで、6月15日を『米百俵デー』に制定。

以来、毎年この日には、『米百俵デー市民の集い』を長岡市米百俵財団と共催し、人材育成への貢献者を表彰する『米百俵賞』の贈呈式や、文化人を招いた記念講演会を行っています。

※式典は一般参加も可能。事前に申し込みを。■お問合先/長岡市教育総務課 ☎(0258)39-2238

8/24頃 小林虎三郎命日法要『病翁忌』

平成6年、虎三郎を敬う市民およそ二百名が集い、『小林虎三郎の遺徳を偲ぶ会』を発足。毎年、命日の8月24日に合わせて、法要『病翁忌』を営む。なお法要は、当日が休日でない場合は直前の日曜日に行っています。一般参加も可。

偲ぶ会では平成10年に興国寺の墓所（P12参照）を整備し、虎三郎と雄七郎の墓を寺院手前（左側）に移動した。初めての人でも分かりやすい位置にあり、拝礼に訪れやすくなっています。

▲ 小林虎三郎・雄七郎の墓（興国寺）

10月第一土曜日 米百俵まつり

秋の収穫を祝いながら、長岡が誇る『米百俵の精神』を次世代へと継承する一大イベント。一番の見所となる『越後長岡時代行列』では、市民およそ五百人が武者衣装などに身を包み、荘厳な雰囲気の中を練り歩く。

そのほか、史実に基づいて新潟市西蒲区の峰岡（三根山藩址）から長岡の大手通（長岡藩址）までを百人で走りつなぐ『米百俵リレー』や、『米百俵の寸劇』などが行われるほか、クイズラリーや昔遊びなどの体験型コーナー「楽しく米百俵を学ぶコーナー」で、長岡の歴史と伝統を楽しく学ぶことができます。

▲長岡の秋を彩る時代絵巻。河井継之助らの長岡藩士のほか、山本五十六など、明治以降の先人たちも多数登場する。

▲老若男女が力を合わせて継走する『米百俵リレー』

▲史実をわかりやすく伝える『米百俵の寸劇』

■お問合先/米百俵まつり実行委員会事務局（長岡市まつり振興課）☎(0258)39-2221

「米百俵」関連商品

「米百俵」を今に伝えるものに、丹精込めて創り上げた「長岡ブランド」ご家族などへのお土産に、あるいは思い出の一品にいかがですか。市内各販売所でお買い求めできます。

越後の銘酒　米百俵

①特別本醸造 720ml　1,025円
②特別純米酒 720ml　1,250円

米百俵ネクタイ

米百俵をイメージしたイラストが描かれている。シルク100%

1本 3,241円
（長生橋ネクタイピン 1,389円）

越後銘菓　米百俵

銘菓「米百俵」は、越後米の焼味甚粉と和三盆糖を使った俵形の打菓子です。　16個入　572円

米百俵のれん

紺地に「三葉柏紋」「米百俵」「長岡藩」を描いた暖簾です。お土産品としても人気のある商品です。

3,000円

米百俵手ぬぐい

「米百俵」の文字が中央に大きく染め抜かれた手ぬぐいは、お土産や贈り物にもぴったりです。

1枚 600円（税込）

米百俵湯呑み

新潟県出身の益子焼作家相澤 博氏が製作。

3,241円

米百俵Tシャツ

胸には「越後長岡」と牧野家「三葉柏紋」がプリントされている。
S・M・L・LLの4サイズが揃っている。

各 2,000円（税込）

※表示価格は税別（一部税込）です。

■お問合先/(一社)長岡観光コンベンション協会 ☎(0258)32-1187

【掲載資料提供者・協力者一覧（五十音順。敬称）】

小野塚伸子、小原誠、興国寺、新日本石油株式会社、高橋すみれ子、田村博文、東洋大学井上円了記念学術センター、長岡市教育委員会（郷土史料館、中央図書館、長岡の人材教育センター、文書資料室）、新潟県立長岡高等学校、同長岡高等学校同窓会、新潟県立長岡聾学校、新潟市西蒲区（旧巻町）、博文館新社（大橋一弘）、半藤未利子、牧野忠昌、山本義正

長岡までの所要時間

列車（新幹線等利用）

- 東　京⇔長　岡……約1時間30分
- 大　阪⇔長　岡……約5時間40分
- 名古屋⇔長　岡……約3時間45分
- 富　山⇔長　岡……約2時間15分
- 新　潟⇔長　岡……約20分

お車（高速道路利用）

- 東　京⇔長　岡……約2時間30分
- 大　阪⇔長　岡……約6時間40分
- 名古屋⇔長　岡……約5時間10分
- 富　山⇔長　岡……約2時間30分
- 新　潟⇔長　岡……約40分

観光・宿泊案内窓口

(一社)長岡観光コンベション協会　☎(0258)32-1187
長岡駅観光案内所　☎(0258)36-3520
長岡市ホテル旅館組合　☎(0258)29-7654

公共交通案内

タクシー

旭タクシー　☎(0258)27-5050	相互タクシー　☎(0258)34-2525
中越交通㈱　☎(0258)35-1239	長岡タクシー　☎(0258)35-1717
㈱カンコー　☎(0258)35-0035	第一タクシー　☎(0258)32-2230
つばめタクシー　☎(0258)35-0226	三越タクシー　☎(0258)35-6161

バス　越後交通㈱　☎(0258)30-0118

長岡市観光企画課　〒940-0062 長岡市大手通2丁目6番地
フェニックス大手イースト長岡市役所大手通庁舎
☎(0258)39-2344